

## 指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和3年度)

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 施設 の 名 称          | 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター |
| 指 定 管 理 者 の 名 称   | (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団  |
| 施 設 所 管 部 課 ( 室 ) | 環境生活部 自然保護課          |

## 1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

| 期 間                 | 管理形態 | 指定管理者(管理受託者)の名称     | 摘 要 |
|---------------------|------|---------------------|-----|
| 平成18年 4月 ~ 平成21年 3月 | 指定管理 | (財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団  |     |
| 平成21年 4月 ~ 平成26年 3月 | 指定管理 | (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 |     |
| 平成26年 4月 ~ 平成31年 3月 | 指定管理 | (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 |     |

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

## 2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

|                 |   |                       |
|-----------------|---|-----------------------|
| 指 定 管 理 者 の 名 称 | 名 称   | 公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 |
|                 | 所在地   | 栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2     |
| 指 定 期 間         | 平成31年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日 (5か年)                                     |                       |
| 募 集 方 法         | <input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募 |                       |

## 3. 施設の概要【施設所管課記入】

|                           |  |  |
|---------------------------|--|--|
| 施 設 の 名 称                 | 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター   |  |
| 所 在 地                     | 栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2  |  |
| 設 置 年 月                   | 平成 3年 1月   |  |
| 根 拠 条 例 等                 | サンクチュアリセンター条例  |  |
| 設 置 目 的                   | 伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立するとともに、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造し、併せて県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくり等を推進するため設置されました。   |  |
| 施 設 の 内 容                 | 敷 地 面 積  | 3,850 m <sup>2</sup>   |
|                           | 構 造  | 鉄筋コンクリート造り 2階建て  |
|                           | 内 容  | 1階 829.87m <sup>2</sup><br>(事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム)<br>2階 563.62m <sup>2</sup><br>(会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室) |
| 開 館 ( 所 ) 日               | ◇ 月曜日(休日を除く)を除く日<br>◇ 休日の翌日(日曜日, 土曜日, 1月2日を除く。)を除く日<br>◇ 12月29日から12月31日を除く日  |  |
| 開 館 ( 所 ) 時 間             | 午前9時00分 ~ 午後4時30分  |  |
| 指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲 | 1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用等について ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務について ⑨施設の管理運営に関する環境配慮について ⑩事業報告<br>2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備 |  |
| 利 用 料 金 制                 | 採 用 の 有 無  | <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無   |
|                           | 利用料金の名称  |  |

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

| 項 目     | 事業計画                     | 実 績                     |                          | 対計画比<br>(C)/(A) | 対前年度比<br>(C)/(B) |
|---------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
|         | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(A) | 前 年 度<br>(令和2年度)<br>(B) | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(C) |                 |                  |
| 開館(所)日数 | 300 日                    | 259 日                   | 292 日                    | 97.3%           | 112.7%           |
| 延べ利用者数  | 30,000 人                 | 24,932 人                | 31,153 人                 | 103.8%          | 125.0%           |

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

| 項 目 | 事業計画                     | 実 績                     |                          | 対計画比<br>(C)/(A) | 対前年度比<br>(C)/(B) |
|-----|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
|     | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(A) | 前 年 度<br>(令和2年度)<br>(B) | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(C) |                 |                  |
|     | 30,000 人                 | 24,932 人                | 31,153 人                 | 103.8%          | 125.0%           |
|     | 人                        | 人                       | 人                        | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
|     | 人                        | 人                       | 人                        | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
|     | 人                        | 人                       | 人                        | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
|     | 人                        | 人                       | 人                        | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
| 合 計 | 30,000 人                 | 24,932 人                | 31,153 人                 | 103.8%          | 125.0%           |

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

| 項 目     | 事業計画                     | 実 績                     |                          | 対計画比<br>(C)/(A) | 対前年度比<br>(C)/(B) |
|---------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
|         | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(A) | 前 年 度<br>(令和2年度)<br>(B) | 評価対象年度<br>(令和3年度)<br>(C) |                 |                  |
| 県指定管理料  | 30,539                   | 30,539                  | 30,539                   | 100.0%          | 100.0%           |
| 利用料金収入  |                          |                         |                          | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
| その他     |                          |                         |                          | #DIV/0!         | #DIV/0!          |
| 収入計 (a) | 30,539                   | 30,539                  | 30,539                   | 100.0%          | 100.0%           |

(2) 支出

|         |        |        |        |         |         |
|---------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 人件費     | 19,590 | 19,504 | 19,538 | 99.7%   | 100.2%  |
| 施設管理費   | 10,949 | 10,718 | 11,043 | 100.9%  | 103.0%  |
| 事業運営費   |        | 0      |        | #DIV/0! | #DIV/0! |
| その他     |        | 317    | 0      | #DIV/0! | 0.0%    |
| 支出計 (b) | 30,539 | 30,539 | 30,581 | 100.1%  | 100.1%  |

(3) 収支

|                 |   |   |     |         |         |
|-----------------|---|---|-----|---------|---------|
| 収 支 (c)=(a)-(b) | 0 | 0 | -42 | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 前期繰越収支差額        |   |   |     | #DIV/0! | #DIV/0! |
| 次期繰越収支差額        |   |   |     | #DIV/0! | #DIV/0! |

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和3年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

| 項目                  | 事業実績<br>【指定管理者記入】  |    | 指定管理者の自己評価<br>【指定管理者記入】  |    | 県の評価<br>【施設所管課記入】 |  |   |
|---------------------|--|----|--|----|-------------------|--|---|
|                     |  |    |  | 評価 |                   | 評価   |   |
| ①管理運営体制             | 指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。   |    | 運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。 |    | A                 | 施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。   | A |
| 人員体制                | 正規   | 4人 | 非正規  | 4人 |                   |  |   |
| ②施設・設備の維持管理業務の実施    | 1 日常的に施設並びに設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。<br>2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。  |    | 法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。                                     |    | A                 | 法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。   | A |
| ③運営業務(ソフト事業等)の実施    | 別記1のとおり  |    | 各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。  |    | S                 | 各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。 | S |
| ④自主事業の実施            | 別記2のとおり  |    | 自主事業は、コロナ禍においても参加者から好評で、リピーターが多く参加している。  |    | S                 | 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、31回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。                    | S |
| ⑤利用者サービスの向上         | 厳しい予算の中、入館者のニーズに応えるべく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新し、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報はじめ調査研究などを積極的に情報発信に努めた。研修室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。 |    | 地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない人数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。                         |    | A                 | インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。             | A |
| ⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映 | 館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置に工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。   |    | 来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し館内展示を行っている。  |    | A                 | 来館者の意見を大切に、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。   | A |
| ⑦安全対策               | 毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行い、来館者に対して速やかに対応できるよう訓練を行った。消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。   |    | 消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。  |    | A                 | 消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。  | A |
| ⑧県民の平等利用            | センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。   |    | 事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけでなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透しつつある。                        |    | A                 | 各種の自主事業は、広く周知しており、多くの参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。   | A |

| 項目       | 事業実績<br>【指定管理者記入】   | 指定管理者の自己評価<br>【指定管理者記入】  |    | 県の評価<br>【施設所管課記入】  |    |
|----------|---|--|----|--|----|
|          |   |  | 評価 |  | 評価 |
| ⑨個人情報の保護 | 1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。<br>2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。 | 令和3年度の情報公開の要請はなし。  | A  | 実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。  | A  |
| ⑩利用実績    | 上記「4. 施設利用実績」のとおり   | 上半期の入館者は、新型コロナウイルスによる外出自粛の中、ハスの開花状況が良く、8月は昨年度を大きく上回った。なお、新型コロナウイルスの緊急事態宣言対象地域に追加されたことにより、8月27日～9月12日（17日間）まで臨時休館を行ったため、9月は481人減少したが、上半期全体では昨年度を大きく上回り4,971人の増となった。また、下半期は、11月、2月、3月に入館者数が昨年度より減少したものの、上半期の入館者増が大きく影響し年度合計では、6,221人の増となり昨年度入館者数の124%となった。 | S  | コロナ過において入館者が昨年度と比較して6,221人増加している。栗原市にある施設として、開館日数292日、1日の平均入館者数が107人は、評価が高い。 | S  |
| ⑪収支実績    | 上記「5. 施設利用実績」のとおり   | 経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。   | A  | 限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。                      | A  |
| ⑫その他の取組  | 絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。   | 地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。コロナ過ではあるが、環境への関心は高く、金成中学校より伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。   | A  | 他団体とも連携した事業が積極的に進められている。   | A  |
| 総合評価     |   | 調査・研究及び沼の保全の核となるサンクチュアリセンターの経費の削減等を行い、管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。  | A  | 県の環境保全の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。     | A  |

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

| 評価 | 評価の考え方                                     |
|----|--|
| S  | 年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。          |
| A  | 年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。         |
| B  | 年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。      |
| C  | 年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。 |

【県が行う評価の基準(目安)】

| 評価 | 評価の考え方   |
|----|--|
| S  | 年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。             |
| A  | 年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。            |
| B  | 年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。          |
| C  | 年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。 |

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

| 項目       | 指定管理者<br>【指定管理者記入】  | 県<br>【施設所管課記入】   |
|----------|---|--|
| 管理運営の課題等 | コロナ過において、入館者が増加したことは、来館者から高い評価をいただいている。3月16日深夜の福島沖を震源とする地震の影響で種物2階の正面ガラスに亀裂が入っているため、自然保護課と協議を行いながら、早期の修繕工事に最大限の支援協力を行う。 | 建物設備の老朽化が目立ってきている中で、福島県沖を震源とする地震により被害があり急がれるものから順次、修繕して行く。 |

## 別記1 【③運營業務(ソフト事業等)の実施】

### 研 究 業 績

#### ○書籍

1. 嶋田哲郎. 2021. 知って楽しいカモ学講座 (森本元監修). 緑書房, 東京.
2. 嶋田哲郎. 2021. ハクチョウ類・ガン類・カモ類の渡り (分担執筆). 鳥の渡り生態学 (樋口広芳編), 東京大学出版会, 東京.

#### ○原著論文 (査読付学術雑誌)

##### 第一著者

1. Fujimoto Y, Takahashi K, Shindo K, Fujiwara T, Arita K, Saitoh K and Shimada T. 2021. Success in population control of the invasive largemouth bass *Micropterus salmoides* through removal at spawning sites in a Japanese shallow lake. *Management of Biological Invasions*: 12, 997–1011.
2. 藤本泰文, 高橋清孝, 進東健太郎, 斉藤憲治, 三塚牧夫, 嶋田哲郎. 2021. 伊豆沼・内沼におけるオオクチバス駆除活動によるゼニタナゴの復活. *魚類学雑誌*, 68, 61–66.

#### ○共著論文

1. Yasuno, N. Shimada, T. Fujimoto, Y. Shikano, S & Kikuchi, E. 2021. Semiaquatic spiders *Alopecosa cinnamomeopilosa* rely on prey derived from macrophyte-based food web: evidence from Lake Izunuma, Japan. *Wetlands Ecol Manage* <https://doi.org/10.1007/s11273-021-09797-6>.
2. 山中登生・山田浩之・藤本泰文・嶋田哲郎. 2021. 全周魚眼スマートフォンカメラと画像処理を用いた魚類の遠隔モニタリング. *応用生態工学* 23: 409-413.
3. 九間啓士朗・海津裕・嶋田哲郎・高橋佑亮・古橋賢一・芋生憲司. 2021. ロボットボートの視覚による誘導のためのディープニューラルネットワークを用いた湖沼水面の植生および環境認識. *応用生態工学* 23: 369-376.
4. 鈴木 透・高橋佑亮・嶋田哲郎. 2021. 伊豆沼の湖沼を利用するサギ類のモニタリングにおける UAV の利用可能性. *応用生態工学* 23: 377-382.
5. 斉藤憲治・速水裕樹. 2021. ミズワラビ属 *Ceratopterus* の世界の北限とみられる記録. 伊豆沼・内沼研究報告 15: 25-30.
6. 斉藤 憲治・三塚 牧夫・麻山 賢人・藤本泰文. 2021. 宮城県伊豆沼・内沼集水域のため池で池干しによる駆除後に再び現れたオオクチバス *Micropterus salmoides* はどこから来たのか?. 伊豆沼・内沼研究報告, 15: 107-120.

#### ○一般普及書

1. Shimada, T. 2021. Ecological consequences of Whooper Swans feeding in below-average water levels at Lake Izunuma-Uchinuma, Miyagi Prefecture, Japan. *Swan newsletter* 16: 25-26.
2. 嶋田哲郎. 2021. 伊豆沼・内沼. *ラムネット J ニュースレター* vol. 44: 3.

○委員会委員・非常勤講師など（主なもの）

（嶋田研究室長）

1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業（ガンカモ類調査）検討委員（環境省）
3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員（宮城県）
4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員（宮城県）
5. 栗原市環境審議会副会長（栗原市）
6. 栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会長（栗原市）
7. 登米市環境審議会会長（登米市）
8. 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会副会長（登米市）
9. 日本鳥学会副会長、評議員、2022年度大会実行委員長（日本鳥学会）  
（藤本主任研究員）
1. 希少野生動植物保存推進員（環境省）
2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員（宮城県）
3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員（宮城県）
4. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員（栗原市）
5. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員（遠野市）
6. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員（環境省）
7. 日本魚類学会自然保護委員（日本魚類学会）
8. 流域環境保全ネットワーク副理事
9. 宮城大学非常勤講師

## 別記2【④自主事業の実施】

### ① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、上半期は6回予定していたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となったが、感染対策を行いながら下半期に5回開催した。

◇令和3年度伊豆沼・内沼自然体験講座

| 回数  | テーマ                      | 開催日    | 参加者数 |
|-----|--------------------------|--------|------|
| 第1回 | 伊豆沼漁師体験                  | 10月 3日 | 18名  |
| 第2回 | ガンの飛立ち観察会&<br>コクガン観察会ツアー | 11月 7日 | 21名  |
| 第3回 | ガンの飛立ち観察会&<br>コクガン観察会ツアー | 11月27日 | 21名  |
| 第4回 | ガンの飛立ち観察会&<br>コクガン観察会ツアー | 12月19日 | 21名  |
| 第5回 | ガンの飛立ち観察会&<br>コクガン観察会ツアー | 1月 8日  | 18名  |
|     | 合計                       |        | 99名  |

※ 予算内訳 収入 財団 計 26万円  
 支出 保険料、委託費 計 26万円  
 (経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

### ② 第31回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性和環境保全の大切さのアピールを行った。また、2月、3月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者78名、内入選者20名)

なお、表彰式は昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、中止となった。

<第30回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

|                     |      |     |      |        |
|---------------------|------|-----|------|--------|
| 登米市伊豆沼内沼サンクチュアリセンター | 令和3年 | 5月  | 1日～  | 5月27日  |
| 登米市市役所1階ロビー         | 令和3年 | 6月  | 1日～  | 6月29日  |
| 栗原市市役所1階ロビー         | 令和3年 | 7月  | 1日～  | 7月29日  |
| JRくりこま高原駅オアシスセンター   | 令和3年 | 8月  | 1日～  | 8月31日  |
| 宮城県庁1階ロビー           | 令和3年 | 11月 | 12日～ | 11月26日 |

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円  
 支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

### ③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

登米・栗原両市と共催で春分の日(3月20日)に第61回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催する予定であったが、3月16日の福島県沖を震源とする地震のため、中止となった。

<クリーンキャンペーン実行委員会メンバー>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、  
 迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、新田北部土地改良区、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 2万円  
 支出 印刷 計 2万円

④ バス・バスターズの活動（ブラックバス駆除ボランティア）

春のオオクチバス繁殖時期に合わせて行われるボランティア活動だが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、中止となったため、職員が駆除作業を行った。

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保安全管理のため、東京大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告15巻に13本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、予防対策を徹底しつつ、展示品を活用した恒常的な解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし対応した。

さらに、下半期にマガンの飛び立ち観察などをテーマとした5回の伊豆沼・内沼自然体験講座を開催した。

1 調査・検討会への参加状況

| 年    | 月  | 日   | 団 体 名                     |
|------|----|-----|---------------------------|
| 令和3年 | 4月 | 8日  | 伊豆沼漁業協同組合打合せ              |
|      | 4月 | 13日 | 環境省東北地方環境事務所打合せ           |
|      | 4月 | 28日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会部会会議（オンライン） |
|      | 5月 | 12日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護・保全部会     |
|      | 5月 | 13日 | 風力発電ヒヤリング（オンライン）          |
|      | 5月 | 20日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会運営委員会       |
|      | 5月 | 27日 | 魚取沼調査（～28日）               |
|      | 6月 | 3日  | 西村、野村先生（東北大）調査            |
|      | 6月 | 8日  | トヨタ打合せ                    |
|      | 6月 | 10日 | 三次元会議（オンライン）              |
|      | 6月 | 10日 | 東北緑化打合せ（オンライン）            |
|      | 6月 | 11日 | 斉藤氏（水生生物保全協会）調査           |
|      | 6月 | 16日 | 水質等打合せ                    |
|      | 6月 | 18日 | 伊豆沼農産、村田製作所打合せ            |
|      | 6月 | 24日 | 野村先生（東北大）調査               |
|      | 7月 | 1日  | 野村先生（東北大）調査               |
|      | 7月 | 1日  | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会     |
|      | 7月 | 2日  | 斉藤氏（水生生物保全協会）ため池調査        |
|      | 7月 | 6日  | 東部地方振興事務所打合せ              |
|      | 7月 | 14日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護・保全部会     |
|      | 7月 | 16日 | 横山先生（山形大）調査               |
|      | 7月 | 16日 | 風力発電ヒアリング（オンライン）          |
|      | 7月 | 20日 | レッドリスト会議（オンライン）           |
|      | 7月 | 29日 | 自然保護課打合せ                  |
|      | 7月 | 30日 | 栗駒山麓ジオパーク推進協議会部会長会議       |



|      |        |                         |
|------|--------|-------------------------|
|      | 8月 3日  | ジオパーク全国大会準備会（伊豆沼・内沼視察）  |
|      | 8月 5日  | 大崎市ラムサール条約湿地保全委員会       |
|      | 8月19日  | 栗原市環境審議会（書面開催）          |
|      | 8月25日  | ザリガニモニタリング（オンライン）       |
|      | 8月27日  | 遠野の景観保存調査委員会（オンライン）     |
|      | 9月17日  | 横山先生（山形大）調査             |
|      | 9月22日  | 風力発電ヒアリング（オンライン）        |
|      | 9月26日  | 斉藤氏（水生生物保全協会）ため池調査      |
|      | 9月29日  | 海津先生（東大）ヒシ刈り（～30日）      |
|      | 10月 6日 | 豊田合成打合せ                 |
|      | 10月 6日 | 宮城大学学生打合せ               |
|      | 10月12日 | 環境省打合せ                  |
|      | 10月14日 | 栗駒山麓ジオパーク荒砥沢保全作業        |
|      | 10月14日 | 北里大調査                   |
|      | 10月26日 | 豊田合成打合せ                 |
|      | 10月28日 | 東北大学野村先生調査              |
|      | 11月 9日 | 栗原市環境審議会                |
|      | 11月10日 | 東北大学野村先生調査              |
|      | 11月10日 | モニタリング1000会議（オンライン）     |
|      | 11月16日 | 栗原市自然環境等協議会             |
|      | 11月19日 | レッドリスト会議（オンライン）         |
|      | 11月19日 | モニタリング1000会議（オンライン）     |
|      | 11月25日 | 栗原市一般廃棄物処理施設基本構想検討委員会   |
|      | 11月28日 | モニタリング1000ガンカモ会議（オンライン） |
|      | 12月 2日 | 栗駒山麓ジオパーク保護保全現地研修会      |
|      | 12月 2日 | 東北大学野村先生調査              |
|      | 12月 3日 | 水鳥フライウェイ全国大会（オンライン）     |
|      | 12月10日 | 東北大中島先生                 |
|      | 12月11日 | 東京大学水野先生調査              |
|      | 12月14日 | 日獣医カモ捕獲調査               |
|      | 12月21日 | 栗駒山麓ジオパーク学習交流会          |
|      | 12月24日 | 沈水植物部会（オンライン）           |
| 令和4年 | 1月11日  | 登米市環境審議会                |
|      | 1月14日  | 環境省淡水魚会議（オンライン）         |
|      | 1月21日  | 大崎市湿地保全活用委員会（オンライン）     |
|      | 1月25日  | 環境省打合せ                  |
|      | 2月 3日  | クリーンキャンペーン・野火打合せ        |
|      | 2月 5日  | 自然再生協議会（オンライン）          |
|      | 2月 8日  | 環境省ザリガニワーキング（オンライン）     |
|      | 2月 9日  | 栗原市産業戦略課打合せ             |

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 2月18日 | 東北地方整備局ダム会議           |
| 3月5日  | ノーバスネット意見交換会（オンライン）   |
| 3月9日  | 栗原市一般廃棄物処理施設基本構想検討委員会 |
| 3月10日 | 栗駒山麓ジオパーク保護保全部会       |
| 3月23日 | 登米市環境審議会              |
| 3月24日 | 栗駒山麓ジオパーク防災教育部会       |
| 3月30日 | 栗駒山麓ジオパーク部会長会議        |

2 調査研究援助

(1)鳥インフルエンザ対策（環境省東北地方環境事務所）

3 出前講座の開催状況

| 開催日    | 団体名   | テーマ         | 参加者数 |
|--------|-------|-------------|------|
| 11月11日 | 吉田公民館 | 沼の生き物たちについて | 50名  |

※ 予算内訳 収入 財団 計 200万円  
 支出 計 160万円

☆ 自主事業収支

（単位：千円）

| 自主事業区分     | 収入    | 支出    | 収支  |
|------------|-------|-------|-----|
| 自然体験講座     | 260   | 260   | 0   |
| フォトコンテスト   | 1,100 | 1,100 | 0   |
| クリーンキャンペーン | 20    | 20    | 0   |
| 調査研究・普及啓発  | 2,000 | 1,600 | 400 |
| 合計         | 3,380 | 2,980 | 400 |